

愛媛県八幡浜市と友好都市協定を締結

地名が漢字で「八」に「幡」と書いて「やわた」と、同じ読み方をする八幡市と愛媛県八幡浜市。さらに、世界で初めて飛行原理を発見した航空界のパイオニア「二宮忠八翁」を通じて、歴史的に縁が深い関係にあります。

これらをきっかけに、平成25年度からは

中学生が互いの市を隔年で訪問する交流事業を開始。この交流を市民間にまで発展させるべく、両市は取り組みを進めています。

これらの交流の積み重ねの上に築かれた絆の証しとして、8月19日(火)に愛媛県八幡浜市において、両市の友好都市協定締結式が行われ、川田翔子八幡市長と大城一

郎八幡浜市長が協定書に署名。さらに、今年度の中学生交流に参加した両市の中学生も、今後も変わらぬ友好関係を築くため、友好都市協定を締結したことを証する証明書に署名をしました。

引き続き、両市は一層の交流親善を深めるため、取り組みを進めてまいります。



(写真は愛媛県八幡浜市提供)



8月19日 八幡浜市で締結式

- 1 友好協定締結式で八幡市を紹介する本市の生徒(八幡浜市民文化活動センター)(※)
- 2 協定書に署名した(右から)川田翔子八幡市長と大城一郎八幡浜市長(※)
- 3 二宮忠八の生涯を紡いだミュージカル「二宮忠八物語」(※)
- 4 二宮忠八考案の玉虫型飛行器の模型(八幡浜市立市民図書館郷土資料室)
- 5 八幡浜港からみた山の斜面に広がる柑橘畑(※)の写真は愛媛県八幡浜市提供



図市民協働推進課 (☎983-5749)



「二宮忠八の祈り」が時代を超え繋いだご縁 長年の交流が結実

蒸し暑い日が続きますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、本市と愛媛県八幡浜市は友好都市協定を締結しました。両市は名前だけでなく、八幡浜市に生まれ、八幡市で没した日本の航空機の父・二宮忠八という共通の偉人が繋いだご縁があります。

忠八翁の素晴らしいところは、人生を懸けた研究であった「有人飛行実現」の夢を打ち砕かれた悔しさを乗り越え、その後の航空業界の発展を見守り、殉難者の方々に心を寄せるため、私財を投じて「飛行神社」を創建されたところにあると思います。自らが最も悔しい思いをした業界に携わり、平穩を祈るというのは並大抵のご人徳では成し得なかったと思います。

こうして忠八翁が繋いだご縁は、平成25年度から始まった両市の中学生交流として遠く離れ

たふたつの市を繋ぎ「友好都市協定」として実を結びました。締結式には両市の中学生も立ち会い、未来を担う世代とも心ひとつに交流を誓うとともに、長年の交流事業の結実を実感していただけたのではないかと思います。

この度、八幡浜市までご同行くださった関係団体の皆様や、携わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げ、両市のますますの交流発展に期待を寄せたいと思います。ありがとうございました。

～二宮忠八翁が結んだ縁～



二宮忠八(※)

あのライト兄弟より先に「世界初の有人飛行」を達成できたかもしれない日本人「二宮忠八」を知っていますか。

今月号は、八幡市と八幡浜市が友好都市協定を締結したことを記念し、飛行神社の友田享宮司に寄稿いただきました。

飛行神社

友田 享宮司寄稿



八幡浜生まれ 挫折乗り越え 八幡市に神社創建

「空を自由に飛ぶたいなあ」——。どこかで聞き覚えのあるセリフです。

今から150年ほど前に鳥や虫を見ながら、このセリフをつぶやいていた少年こそ二宮忠八です。飛行機の製作や飛行神社の創建、後に評価を受けるまでには数多くの苦労や壁に対峙し、それを乗り越え、またそれをチャンスに変えてきました。

忠八は、愛媛県八幡浜で海産物商を営む二宮家の四男として生まれました。正式には「忠人」でしたが、父の「商人は商人らしく」との思いから「人」が広がり「八」になり、「忠八」となりました。

兄達の事業失敗や父幸蔵の死去などが重なり、忠八は家計を助けるために13歳で働きに出ました。雑貨屋や初めてできた写真屋、地図の測量技師の手伝いなど、自分の興味がある様々な仕事をしていました。その中でも叔父が営む薬屋の奉公では、そこにあった本を読み漁り、物理や化学に興味を持ちました。また、学問にも励み、国学や漢学、南画なども学びました。

明治20年(1887)、忠八が22歳の時に当時の軍隊に入隊しますが、身長が足りず本科兵にはなれませんでした。そこで、薬屋の知識を活かし、看護卒として入隊します。これが忠八の飛行原理発見に大きな影響を与えます。カラスが滑空する姿を見て製作したカラス型飛行機の発明です。その飛行機が飛んだ時には、さぞ心躍ったことでしょう。しかし、次の人が乗る為の飛行機、玉虫型飛行機の製作は誰にも共感されることはありませんでした。一人で飛行機を作る中、ライト兄弟が飛んだ知らせを聞きます。世界で最初に空を自由に飛ぶ夢は、叶いませんでした。

しかし、忠八はそこで仲間、理解者の大

切さに気づいたのかもしれませんが。飛行神社の創建にも多くの方々に協力していただき、創建後は、製薬会社の役員仲間でもあり、忠八の飛行機の理解者でもあった現在も残る製薬会社の創始者の方々を薬祖神として神社に祀りました。それはパイロットのみならず、研究者や開発者の健康や病気の平癒を祈願するもので、神社創建の想いである航空の安全、航空業界の発展へ導く神様として迎えたのです。

「忠八がライト兄弟より先に飛んでいたらどうなっていたか？」と問われることがあります。私は日本の飛行機、世界の飛行機が様変わりし、すごい評価を受けていただろうと思う一方、航空殉難者と共に空の安全、発展を祈ろうとは思わなかったのではないのでしょうか。殉難者を自分と同じ志を持った仲間だと思うからこそ飛行神社を創建し、その想いを現在に残すことができたのではないのでしょうか。

飛行神社が忠八の自邸内に創建され、今年で110年を迎えました。そんな年に八幡市と八幡浜市が友好都市としてつながっていただけることは、故郷を思い続けた忠八にとっても本当にうれしいことだと思います。教育の場から交流をしようと10年以上前から中学生の交流事業を続けていただいた両市のご理解があつてのことと感謝しております。

交流事業に参加していただいた生徒の皆さんには忠八の苦労や挫折に負けない心はもちろんですが、様々なものに興味を持ち、経験し、仲間や理解者と出会い、または自分が誰かの理解者になれる心を養ってください。そして八幡市と八幡浜市の両市の理解者になっていただけることを心から期待しております。

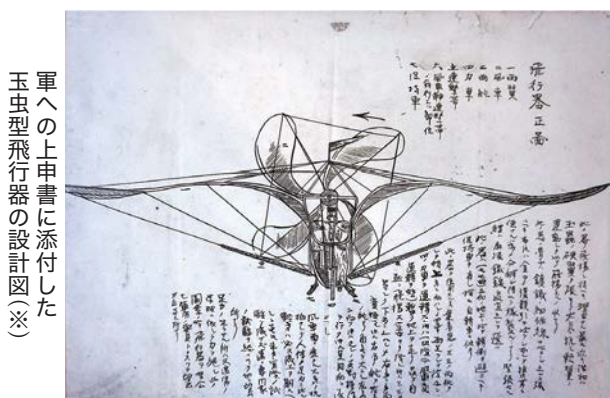
翁の思い継ぎ互いに理解者になれる関係築いて



カラス型飛行器模型(※)



飛行神社資料館に展示されている玉虫型飛行器(模型)



軍への上申書に添付した玉虫型飛行器の設計図(※)

(※)の写真は飛行神社提供

飛行神社資料館 玉虫型飛行器(模型)など展示



本殿に隣接する飛行神社資料館には、これまでの忠八翁の功績をたたえる資料や晩年に作り残した玉虫型飛行器(模型)のほか、各企業や団体からの寄贈や奉納された航空機やロケットの模型等が展示されています。

■開館時間 午前9時～午後4時

■拝観料 大人300円、小中高生200円

固飛行神社 (☎982-2329)